

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

加賀市三木と奥谷でしか発見されておらず、三木が日本海側の分布北限。個体数も少なく、ため池の改修や捕食性魚類の影響が危惧される。

形態

腹長33~35mm、後翅長26~29mmで、黄色の地に黒条があり、コサナエによく似るがやや大きい。オスの尾部上付器には背面に棘があり、メスの生殖弁は二又に深く裂けている。

国内分布

日本特産種で、本州中部以南から九州にかけて分布するが、普遍的ではない。北陸では福井~石川の県境の一部のため池に産するが、他地域からは未知である。

県内分布

加賀市三木の一つのため池で、成熟したオス2頭が1998年に記録され、1999年には同じ池で計8頭の羽化殻が見つかり発生が確認された。その後この池は改修で生息しなくなったが、付近の2つのため池でも発見されている。

生態

平地~丘陵の池沼、水田、用水溝などに幼虫は生息し、泥にもぐり長い腹端を突き出している。成虫は4月に羽化し、池の周辺の陽当りのよい土堤や草地で飛んだり静止している。成虫の生態はコサナエとあまり変わらないが、発生時期がやや早い。

生息地の条件

農業や廃水の流入がなく、堤防はコンクリートや防水シートでおおわれていないこと。ブラックバスやブルーギルなどの捕食性魚類が繁殖していないこと。浮葉植物が適当に生え、開水面があり、周囲に草原や樹林もあることが要件。

生存の危機

ため池の埋め立て、水抜き後の放置、廃棄物の投入、外来魚の移入、林野の開発などが脅威となる。加賀市三木付近では、本種の生息する池の自然度は高いが、これをコンクリート化や防水シート張りになると生存が危ぶまれる。周囲の道路建設で車の通行量が増えて間接的影響が及ぶこともある。
(A, C)

特記事項

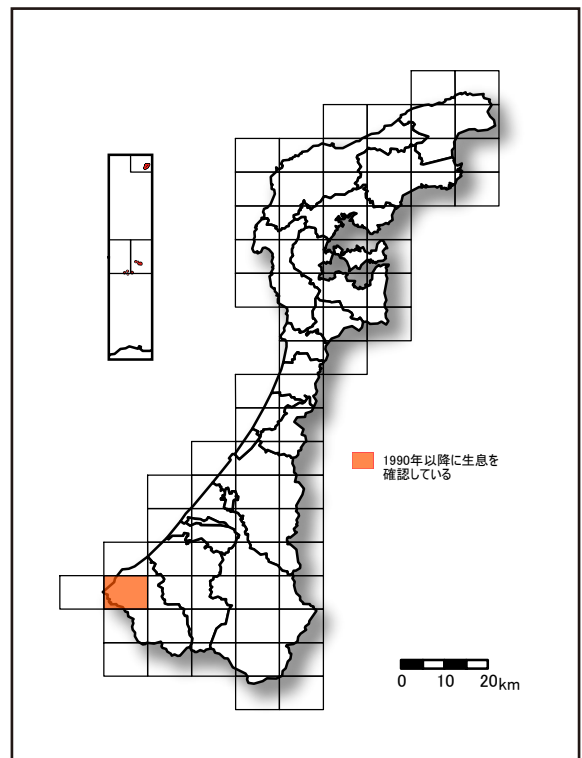
県産の個体は、前肩条の黄色部が黒化し消失する特徴がある。

参考文献

武藤 明 1998. 石川・福井の1998年度の蜻蛉資料. *Tombo*, 41: 33-36.
武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. *とっくりばち*, (75): 24-28.



標本提供者: 武藤明



県内の分布